



実行委員長（蔵本水稲共業組合）  
半沢 洋一さん（福岡蔵本）  
（田植え体験に協力）

「もの」を大切に作る心と「体験する」ことの大切さを知ってほしい

農業を通じて、何かの役に立てればと思ひ協力しました。農業を体験することは、子どもにとっても大人にとっても「食」の教育につながります。米を作る大変さを少しの時間でも体感して、自分たちが作った作物を食べれば、ものを粗末にはできなくなるでしょう。子どもたちには「もの」を大切に作る心と同時に、「体験する」ことの大切さを知ってほ

しいですね。そして、秋には「収穫の喜び」を味わってほしいと思います。農家の高齢化が騒がれていますが、若い人だけが後継者とは限りません。定年退職して、そこから農業を始めるというもひとつの手だと思います。白石に来てもらうために、いろいろな年代の人が、いろいろな体験を白石で気軽にできるようになるといいですね。

「体験した」で終わりではなく、次につながるように

私の牧場は「酪農教育ファーム認証牧場」として、子どもから大人まで酪農体験の場を提供しています。今回のツアーでも、せっかく白石に来ていただいたので、感動を与えたいという思いがありました。酪農には無限の教材があります。特に「食育や命の大切さ」を学べると考えています。牛乳は命のバトンです。人は牛乳を飲み、

牛肉を食べます。また、牛ふんはたい肥となりお米や野菜の栄養となります。皆さんには酪農を理解してもらい、日本の農業の応援隊になってもらいたいです。「体験した」で終わりではなく、「また来たい」と思った方に対応するかも考えていますね。そのためにはお互いが連携し合って、地域ぐるみで活性化を図っていくことが重要になると思います。



南蔵王不忘高原牧場  
佐久間純一さん（福岡八宮）  
（酪農体験に協力）

まずは白石に来てもらい、いろいろな白石を体験してほしい

参加した皆さんは初めての体験で、生き生きした目をしていました。リンゴの収穫をしたことはあっても、摘果作業は珍しいですね。リンゴの花は、1カ所から5つ程度の花を咲かせて実になります。いくつも実を残したままだと栄養が分散し、大きくておいしいリンゴにはなりません。摘果は実を大きくし、品質を良くするために欠かせない作業です。

農家はもうからないから担い手がないと言われるかもしれませんが、やり次第で大きく変わるとも思います。良いものを作れば、高く買ってもらえます。そのための努力が必要です。白石に住んでもらうためには、まず白石に来てもらうことが大切だと思います。リンゴの摘果作業だけでなく、いろいろなことを体験できるようにしていけたらいいですね。



寿丸果樹園  
菊地 哲夫さん（寺屋敷前）  
（リンゴ摘果体験に協力）

- 1\_田んぼに顔からダイビング 2\_どろんこになっても笑顔 3\_パパの草笛とても上手 4\_親子そろって「はい、ポーズ！」  
5\_懇親会では風間市長も一緒に交流 6\_初めての乳搾り体験 7\_リンゴの摘果作業の様子。実りの秋が待ち遠しい  
8\_2年連続で参加していただいたご家族 9\_宮城大学の皆さんも田植えに挑戦 10\_田植え体験の後に記念撮影！



2

白石の魅力が市外の方にもっと知ってもらいたいと、白石市田舎暮らし体験ツアー実行委員会が主催したツアーも今年で5回目。15日は、蔵本水稲共業組合長であり実行委員長を務める半沢洋一さんの水田で田植えを体験しました。その夜は鎌先温泉に宿泊し、農業だけでなく温泉や白石の味覚も楽しみました。16日は、南蔵王不忘高原牧場で牛の搾乳やバター作り、寿丸果樹園でリンゴの摘果作業を体験しました。このツアーは、参加した皆さんに田舎暮らし（農業）を楽し

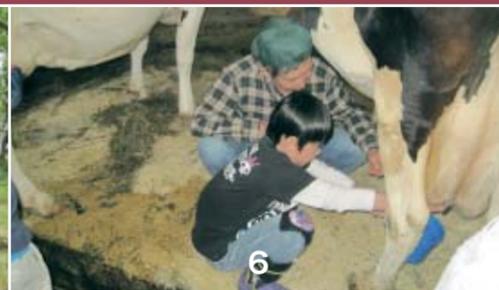
5月15日・16日の2日間、白石市田舎暮らし体験ツアー「春編」が開催され、仙台市に住む8家族22人が参加しました。参加した皆さんは田植えやリンゴの摘果作業、酪農などを体験。子どもも大人も農業の魅力・白石の魅力を全身で体感し、楽しい2日間を過ごしていただきました。

水と緑のまち白石を満喫！  
田舎暮らし体験ツアー「春編」

んでいただくと同時に、「白石への定住促進」につなげたいという思いがあります。どこも自治体でも人口の減少は悩みの種であり、「都市部からいかに人を集めるか」が今後の大きな課題となっています。今回のツアーには、宮城大学との連携協力事業の一環として同大学の調査員も参加し、定住促進のための意識調査を実施しました。10月には稲刈りやリンゴの収穫体験が予定されており、白石の実りの秋を体感していただきます。



7



6



5



10



8



9



4



3